

特集3

2022年中国共産党第20回大会を控えて

高橋 博

(21世紀中国総研主任研究員)

中国共産党は、2022年秋に第20回全国代表大会（20回大会）を開催する。「中米対立の激化」、「EUの反中陣営参加」、「コロナ災害での中国独り勝ち」と「独り勝ちに対する反発」、これに「建党百周年記念行事」などの報道に埋もれて、20回大会報道はそれほど多くない。しかし、乏しい報道の中でも習近平が20回大会で総書記三選を狙っている、いや、総書記三選は既に確定しているなどの噂が何故か大きく飛び交っている。そこで今回は20回大会について考えてみる。

毛沢東も三舎を避けた党大会

中共第20回全国代表大会（全称は「中国共産党第二十次全国代表大会」）は現行党規約第19条が「党の全国代表大会は5年毎に一回開催し、中央委員会がこれを招集する。……」とある。

例外規定として、その後に「中央委員会が必要と認めた、あるいは3分の1以上の省級組織が要求した場合、全国代表大会を繰り上げ開催できる」と記しているが、「非常時の場合以外は開催を延期してはならない（原文は「如無非常情況、不得延期举行」）」とさらに規定している。

この「非常時の場合以外」の条件は如何にも厳しい感じがするが、これは「文化大革命（1966年5月～1976年10月）」の際、文革派が自派に有利な体制を保持するため、当時の党中央組織である第8期中央委員会が召集すべき第9回全国代表大会の開催を、1969年4月まで阻止した実例を考慮したためである。そのために文革終了後に党中央の権力を改革派が掌握して開催した12回大会で党規約を改正する際、文革の再来を警戒して第18条に「非常時の場合以外は開催を延期してはならない」と、わざわざ書き加えたものである。

筆者がこのように些細なことをわざわざ最初に紹介したのは、最強の独裁者と見られていた毛沢東ですら、「党の代表大会開催」に対しては三舎を避けたとい



2021年7月1日午前、北京天安門広場における中国共産党成立100周年祝賀大会における中共中央総書記、国家主席、中央軍委主席習近平。「百年前、中国共産党が成立した時は50人余りの黨員しかなかったが、今日ではすでに9500万人余りの黨員を擁し、14億人余りの人口大国を指導し、重大なグローバル影響力を持つ世界一の執政党となっている。」

う事実を注目して頂きたいからである（「三舎を避ける」とは、辞退したり、しりごみをしたりすること）。

毛沢東は文革開始時に中共中央委員会会議の開催を認めなかったが、その後は十数回も開催しているので中央委員会に対しては警戒していない。しかし、この中央委員会メンバーの選出権を持つ党代表大会に対する態度は明らかに異なる。党規約の規定「5年に1回」の開催を無視し、党の基本中の基本である全国黨員の代表が出席する全国代表大会を13年以上も開催しなかったのである。何故か？

「党の代表大会」について説明すると、「党の代表大会」は一般に「党の全国代表大会」である。「党の地方各級代表大会」、「党の基層代表大会」を指す場合もあるが、一般に「党の代表大会」と言えば、中共全国代表大会を指す場合が多い。

党の全国代表大会（以下、大会と略称）は、中国共産党の最高領導機関で、5年毎に1回、中央委員会が招集する。大会の職権には中央委員会と中央紀律検査

委員会の報告を聴取、審議し、党の重大問題を討議・決定し、その他に党章（原文は「党章」）の改正、中央委員会と中央紀律検査委員会の選出などがある。大会の閉会期間中は中央委員会が全党の活動を領導する。

「無知美少女」が大会代表への早道

次に党大会の構成を紹介する。

大会の開催前後には常に代表選出に関する報道が出現するが、そのほとんどは生産の第一線で働く大衆代表や女性代表、少数民族代表が選出されて感激し、各自の持ち場の声を代表して大会に届ける、というもので、選出のシステムを説明したものは少ない。

選出方法は、各単位の基層党組織が上部機関から配分された代表の員数に合わせて代表を決定する。党幹部のお眼鏡にかなった基層幹部、あるいは幹部の関係者を所轄単位、あるいは所轄地区の大衆代表、女性代表、少数民族代表として上部に報告するのが実情である。筆者の記憶では情報公開の波に乗って第17回大会あたりから代表選出の状況に関する報道がポチポチと出ている。

昔は、と言っても改革開放の時代に入ってからだが、全国人民代表大会や政治協商会議、さらには一般の団体などの正副会長や理事など役職に選ばれる者は、「無知少女」が多いと言われていたが、今では「無知美少女」らしい。

「無知少女」の「無」は「無党派分子」を指す。民主党派も一応は党派でも一般大衆の頭では党派に入らず、簡単に言えば中共黨員ではないという意味である。「知」は「知識分子」で知識、学識あるいは常識に対する重視である。「少」はかつては「少数民族」だったが最近は変化し、年齢を指すようになって「若さ」、それも「若く」してポストに就いた者を指すようである。最後の「女」は女性で紛れがない。そして最近の「無知美少女」に追加された「美」は中国語の米国すなわち「美国」の「美」で、より詳細に言えば米国留学経験者を指すのだと言う。

結局、「無知美少女」とは「中共黨員でなく、知識分子で、米国留学から帰国し、「若く」して」ポストに就いている女性」を指し、このような対象は団体に限らず企業や友人としても大歓迎される者であるという。正に「昔は遠くなりにはけり」である。

大会代表は、中央と地方の混血児

本題に戻る。

2017年10月に新華社が伝えた「過去を引き継いで将来を切り開く無限の力を凝縮しよう——党の十九大代表誕生記〔原文は「凝聚起繼往開来的磅礴力量——党的十九大代表誕生記〕」を紹介する。

アドレス = http://news.xinhuanet.com/politics/2017-10/02/c_1121758052.htm

また、この「誕生記」に紹介された大会代表の各種データを基礎とし、さら

表1：党代表大会代表選出単位別員数〔第17、18、19回大会〕

選出単位名	17回	18回	19回	選出単位名	17回	18回	19回
直轄市				西部地区			
北京	61	64	63	四川	70	72	73
上海	72	73	73	広西	45	46	48
天津	45	48	46	貴州	37	38	39
重慶	40	42	43	雲南	45	47	47
東部				チベット	27	28	29
河北	61	62	63	陝西	42	43	44
江蘇	68	70	71	甘肅	38	39	41
浙江	48	50	51	青海	27	28	29
福建	40	41	41	寧夏	30	30	30
山東	72	75	76	新疆	41	42	43
広東	68	69	70	その他			
海南	25	26	26	香港マカオ	15	15	15
中部				台湾	10	10	10
山西	41	42	43	地方小計	1541	1581	1601
安徽	54	56	57	中央部門			
江西	41	42	43	中央直属機関	110	108	109
河南	68	68	69	中央国家機関	182	184	186
湖北	61	62	63	解放軍	295	251	253
湖南	63	63	64	武警		49	50
東北				中央企業	46	52	53
遼寧	62	63	63	中央金融	40	42	44
吉林	36	37	37	特別招聘	57	57	74
黒龍江	49	50	50	中央代表小計	730	743	769
内蒙古	39	40	41	党大会代表総計	2,271	2,324	2,370

に各種データを加えて筆者が作成した「党代表大会代表選出単位別一覧表〔17、18、19大〕」も紹介する。

注：17回大会、18回大会、19回大会の公表資料によると、17回大会の代表総数は2,270名、18回大会2,325名、19回大会は2,354名で、本表と若干の相違がある。正確さを欠くが大会代表の全体的な傾向を捉えるには、差支えないと思う。

表1：党代表大会代表選出単位別員数〔17、18、19大〕は、2007年開催の17回大会から2017年開催の19回大会までの党代表大会代表をそれぞれの選出単位別に分類したものである。

さらに見易いように地方出身と中央出身に分けてある。香港・マカオの特別行政区と台湾代表は一応地方単位に区分した。

中央部門の中央直属機関は中共中央宣伝部や中央組織部など中央直属機関の職

員、中央国家機関は國務院に司法・檢察機関などで特に説明の必要はないと思う。特別招聘代表は既に引退した胡錦濤、温家宝などの高級指導幹部などで、中央や地方から選抜された大会代表と同様な審議・採択権を持つ。

大会ではその他に列席人員が出席するが、彼らは関連部門の関係で大会に単に招待されただけの各種単位のお偉方であり、審議・採択権は持たない。

地方代表は全代表の68%

表1を見て先ず驚かされるのは地方単位選出代表の多さだろう。「党の十九大代表誕生記」で描かれているように、地方で選出された代表はその地区の党機関によって選び出された者であり、一応は党中央の下で奮闘するという建前があるにしても、彼らの多くは自分たちの故郷・単位の発展のために奮闘努力すると誓い、地域の人々から歓送されて北京に上京した代表であり、彼らが心に誓ったものは建前は建前としても最後はやはり故郷の繁栄になるだろう。

そのような代表構成の中で党中央が全国的な見地で政策を提出しても、審議・採択になると中央と地方などの矛盾が出現し、党中央を核心とした団結を貫くのも現実問題としては容易なことでないだろう。党中央と政府を揶揄した「政策不出中南海」の言葉が依然として市場に残るのも致し方ないことである。

「1」の中の19回大会を例にとると、大会の総代表数2370名の中で中央部門代表が769名なのに対し、地方地区代表が1601名で代表全体のほぼ68%を占めている。もちろん、地方選出代表と言っても全員が同一意見の持ち主でないし、審議採決に一致した態度を取る訳もないが、大会で審議する重大な問題で、特に中央と地方の利害が大きく異なる場合には、地方代表の数的優位は決して軽視できるものではない。さらに中央部門で最多の代表数を誇る軍代表を見て、兵士の多くは地方出身であり、さらに従来歴史特に文革期を見ると解放軍が中央の抵抗勢力となった例が結構多いのも事実である。

党大会と中央委、総書記と三位一体？

現時点での中国共産党では党中央が確かに独裁的な権力を誇り、党全体が党中央に強固に掌握されているように見える。

しかし、その党中央を形成するピラミッド型の権力構成体制の基盤に位置する中共全国代表大会代表の構成が、かなりの程度で地方優位の状態にあることは注目すべきだろう。中国には昔から「山高、皇帝遠」の言葉があり、最近の「政策不出中南海」はその延長線に位置している。中国に限らず国家の中に中央と地方間の相違、矛盾、確執が常に存在するのは否定できない事実であり、しかも大国であればあるほど問題が深刻化・巨大化する危険性があることも最近では益々世界的な現象となっている。

中国の政治体制で興味深いのは党大会と中央委員会、中央政治局と総書記との関係である。前述したように党の全国代表大会は中央委員会と中央紀律検査委員

表2：各期別中央委員出身単位表

	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	総計
党中央	14	14	13	21	21	30	32	145
全人代	5	7	11	8	11	2	5	49
国家主席	1	0	0	0	0	0	0	1
国務院	44	51	53	54	59	53	46	360
司法	1	2	1	2	2	4	5	17
政協会議	6	7	5	7	8	2	4	39
地方党・政	61	56	60	53	54	59	60	403
軍中央・地方	30	42	42	44	42	40	40	280
企業	3	3	3	2	2	7	2	22
団体	7	5	4	7	4	8	10	45
その他	2	1	0	0	0	0	0	3
不明	1	1	1	0	1	0	0	4
合計	175	189	193	198	204	205	204	1368

会の各メンバーを選出し、選出された中央委員会は中央政治局、中央政治局常務委員会と中央委員会総書記を選出する。現在、党の核心は確かに中央政治局とその常務委員会であり、総書記である。しかし、現行党規約の第22条は「……中央委員会は中央政治局によって毎年少なくとも一回全体会議を開催する。中央政治局は中央委員会全体会議において活動を報告し、指導と非指導、監督を受ける」。すなわち、中央委員会と政治局・総書記の間では報告と監督、選出と被選出が相互に絡み合い、微妙な関係を保持している。

次に、大会で選出された中央委員会メンバーの選出された当時の所属単位、言葉を変えると選出母体別に分類した「表2：各期別中央委員出身単位表」を御覧に入れる。

ここでも大会の勢力分布を反映し地方党政が第17期以外で常に第1位を占めている。意外なのは国務院で17期に中央委員59名を占め、その他の期でも常に第2位をキープしていることだ。筆者はかなり以前、中央と地方の間で様々な問題での取り引きが行われているという指摘を見た記憶がある。となると、国務院が中央の行政部門として中央と地方の各部門との間で取り引き材料を豊富に持つことが影響しているのではないだろうか？

この「表2：各期別中央委員出身単位表」をご覧になれば、全人代と政協が、党大会開催の翌年に任期5年の任期替えによる大幅な人事異動を控えているため若干の員数の凸凹を示しているが、全体的には13期から19期までほぼ安定した数字が並んでいることがご理解頂けると思う。

そしてその背後には大会開催の1年前から中央書記処と中央組織部による綿密な下準備と中央と地方など各部門間で緊密な打ち合わせを進めた作業が存在しているので、その実情を中国が公表された資料を下に紹介する。この中央委員会や

中央紀律検査委員会のメンバー選出方法は従来には全くの闇に閉ざされていたが、改革開放の波に洗われたためか15回大会（総書記＝江沢民）当時に、新華社が華字数1,700余華字で簡単に報道したのが恐らく最初で、党中央部門が中央委員会メンバーの選出準備を前年から開始していることを明確に伝えている。

この動きは胡錦濤が総書記を担当した16回大会と17回大会でより活発になり、文字数が共に8000余華字と増大して内容も具体性を増している。この流れは習近平が総書記を担当した18回大会、19回大会にも繋がっているのも、ここでは最も新しい2017年10月24日に新華社が伝えた華字数9700余字の「歴史の重任を担って、復興の偉業を切り開こう——新中共中央委員・中央紀律検査委員会誕生記」の要旨をかいつまんで紹介する。（<http://cpc.people.com.cn/19th/n1/2017/1024/c414305-29606849.html>）

「新中共中央委員・中央紀律検査委員会誕生記」

1916年2月、中央政治局常務委員会は19回大会関連人事の準備工作について専門に検討し、19回大会幹部考査領導小組（原文＝十九大幹部考察領導小組。以下「幹部考査小組」と略称）の設立を決定、習近平が組長を担当。

習近平総書記は1年余の間に各省市区と中央単位の党委（党組）主要責任同志の会議に3回出席し、19回大会の人選考査活動に関する情況報告を聴取・指示。

2016年6月に中央政治局常委会と政治局会議が「19大『兩委』（中共中央委員会と中央紀律検査委員会を指す）人事の準備活動を立派に進めることに関する意見」を審議・採択、全体的な要求と人選の条件・構造について明確な意見を提出。

2016年7月、幹部考査小組は「19大『兩委』人選考査工作總体方案」を採択し、候補者指名員数の配分および考査方法と段取り、組織面での実施など具体的に計画。

2016年7月から17年6月まで、幹部考査小組は前後して46の考査組を設立し、31の省市区と124の国家機関・中央金融企業・在京中央企業などの単位を視察。中央軍事委も10の考査組を全軍の29の大単位と軍委機関、戦区級部門を考査。

幹部考査小組は会議を7回、中央政治局常委も6回会議を招集し、『兩委』人選候補の予選人選提案名簿（原文は『『兩委』候選人預備人選建議名單』）を検討、提出。幹部考査小組は候補対象者を現地で詳細に考査。

2017年9月25日、中央政治局常委会は『兩委』候補者予選人選提案名簿を統一的に審議し、同月29日に中央政治局会議を招集して同名簿を採択。

2017年10月20日、19大主席団第2回会議で劉雲山（18期中央政治局常委・書記処書記）が予選人選提案名簿について説明。大会主席団は採決して全代表に提出。

大会では各代表団が差額選挙方式で人選提案名簿に対する予備選挙を実施し、19期中央委員候補者222名の中で18人が落選して当選が204名、候補中央委員の候補者189名の内17人が落選して172名が当選。

10月22日夜と23日午前、大会主席団が第3回と第4回の会議を開催して予備選挙で生まれた候補者名簿を採択。

24日午前、習近平の主宰の下、大会で正式選挙を挙行し、2300余名の19大代表と特別招聘代表が無記名投票方式で376名の中央委員・候補委員で構成される中共第19期中央委員会と133名の中央紀律検査委員会を選出。

一年前から準備、一月前に候補者決定、一日前に最後決定

以上が19回大会における中央委員会と中央紀律検査委員会メンバー選挙までの経緯である。

一般に第19期中央委員会と中央紀律検査委員会メンバーの選挙は、1917年10月24日に北京の人民大会堂で行われたと伝えられているが、実際には選挙が行われた1年以上も前の2016年2月、中央政治局常務委員会が中央委員会メンバーの選挙など一連の19回大会人事に関する準備を開始し、習近平総書記を組長とする19回大会幹部考査領導小組が設立され、その後中央と地方の各関連機関が密接に協議・検討を重ねて各委員会メンバーの配分や人選の基準などを決定、党大会開催一月前の1917年9月25日に中央政治局常委会が、19回大会幹部考査領導小組の提出した候補者予選人選提案名簿を審議・採択、同名簿を19回大会主席団に提出。『両委』候補者予選人選提案名簿を統一的に審議し、同月29日に中央政治局会議を招集して同名簿を採択。大会では中央と地方から参加した各代表団が、大会採決の一日前に中共中央の提出した人選提案名簿を差額選挙方式による予備選挙を実施。そして党大会が10月24日午前に習近平国家主席・中共中央総書記の主宰の下に全大会代表による正式選挙で中央委員会と中央紀律検査委員会メンバー名簿を採択している。

シャンシャン大会で決まる中央委員会

従来から中国共産党は内部矛盾に派閥闘争が激烈で、内部闘争に絶え間が無いという見方が多いようだが、党中央の核心である中央委員会の任期交代の実態を見ると、前期の党中央が後期中央委員の選出に極めて密接な関わりを持ち、さらに持っていること、さらに相互に様々な矛盾と利害関係を持つ中央と地方、また同じ党中央機関とは言え実際には角突き合いの機関と称される中共中央機関も、後期中央委員会の設立のために協議を重ね、一応は穏便な任期交代を実現させている体制は注目に値するのではないだろうか。

だが、党の全国代表大会は人事決定以外にも「中央委員会と中央紀律検査委員会の報告の聴取と審議」という大きな職権を担っている。そして中国共産党の最高領導機関である大会が採択した「18期中央委員会報告に関する第19回全国代表大会の決議」は「……大会が採択した18期中央委員会の報告は……党と国家の事業が前進する方向をより一層明らかにしており、全党・全国・各族人民の智慧の結晶であり、我々の党が全国各族人民と団結し、導いて中国の特色を持つ社

会主義を堅持し、発展させる政治宣言・行動綱領であり、マルクス主義の綱領的な文献である」と明確に示しているように、前期中央委員会の報告が後期中央委員会も含めた党中央が前進するための政治宣言・行動綱領であると宣言している。すなわち、20回大会で採択されると見られる習近平を核心とした19期の党中央の活動報告が、20回大会で選出される20期の党中央の綱領・政策・方針であると事前に決定しているのである。その他にも改革開放以降に中共が堅持している「民主集中制」の今後など、様々な問題を含んでいるので簡単ではない。 